

新年号 介護あんしん 相談員だより

第44号 令和2年1月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

明けましておめでとうございます。
去年は、介護あんしん相談員の受け入れに
ご理解いただきまして、ありがとうございました。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



介護あんしん相談員は橋渡しをする事を目的としています！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。

介護あんしん相談員は、利用者様やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見えたりした点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。



利用者さんや介護あんしん相談員の声からいくつかをご紹介します
(令和元年10月・11月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：O様が車椅子で、医務室にて過ごされていましたが、

施設：ある時、医務室に入られたら落ち着かれたので、本人にとって安心できる場所だと思っています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



落ち着きのないO様ですが、医務室ではとても落ち着かれ安定されるそうです。
娘様が面会に来られていて、「以前の職業とも関係があるのかもしれない。施設にはとても感謝しています。」とお話しされていました。
医務室で過ごされていたときのO様は、表情もやさしかったそうです。
施設では、利用者様の落ち着ける空間を見つけ、臨機応変に対応されていると感じました。やはり、利用者様主体のケアをするためには、利用者様のこれまでの生活を知ることが、とても大切だということを再確認しました。



～利用者様の声より～

利用者：(T様より)スタッフさんがやさしい。

施設：スタッフ全員が、ユマニチュードケア技法を実践しています。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



最近、施設からの報告書で、「ユマニチュードを実践しています。」という内容が増えていているように感じています。

真正面から目を見て、ゆっくりやさしく語りかけてもらい、介助する場合には、ゆっくり触れて欲しいと、高齢者に限らず、皆が思うことではないでしょうか。

利用者のT様はご夫婦で入所されており、こちらの施設では第3の人生を楽しまれている、サポートを行っていますということでした。

T様は自分のために、自分で手や指の運動をし、部屋で歩くように努めているそうです。また、ご家族とも相談し、必要に応じてリハビリパンツも利用しながら、パンツで過ごされるようにサポートされているそうです。

施設側のサポート、ご利用者様の頑張りがお互いに良い方向に向かっているのですね。

利用者：骨折後、自分は車椅子にならずに必ず歩いてみせると思っていたが、
今イメージ通りに回復できたのは、この施設の方々のおかげです。

施設：Mさまの頑張りも大きいと思います。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



入居当初は腰痛がひどく娘様が車椅子を購入されましたが、ほとんど使用せず、現在は歩行器を使用し移動されているそうです。

やはりここで大切だったのは、ご本人がどうなりたいのかというイメージだったのではないのでしょうか。車椅子に乗った自分ではなく、二本の足を地につけて歩く自分の姿をイメージし、努力されたのでしょうか。

もちろんそのイメージを実現できるように施設のスタッフさんがサポートされたこともとても良かったと思います。

相談員が訪問したときには、ベッドにつかまりながらの歩行で移動されていたそうです。利用者さまの誇らしい顔が浮かぶようです。



鳥栖広域 相談員だより

検索

鳥栖地区広域市町村圏組合のホームページで、今までの「介護あんしん相談員だより」を閲覧することができます。ご利用ください。